

令和2年度 学校法人北見大谷学園 認定こども園北見大谷幼稚園ほいくの森 『学校評価報告書』

項目	重点目標（保育活動等）	達成状況・成果・課題	評価	改善・方策	学校関係者評価（意見・要望）
1 認定こども園の運営・組織	①教育（保育）理念・目標・重点目標・指導計画等に基づき、日常の保育を推進する。	〔○〕重点目標に沿った保育ができた。特に年間カリキュラムと月案が機能し、中・長期的な見直しによる保育が出来た。	B	年間カリキュラムの見直しを図り、各年齢の目標を明確にしながら保育を推進する。	妥当である。引き続き、目指す子どもの姿『やさしい子 えがおであそぶ子 げんきな子』を共通の願いとして、各年齢に合わせた保育や援助をお願いする。
	②教職員が教育（保育）理念等の目標達成に向け、使命感と責任感を持って協働体制をつくり園の運営に参画する。	〔○〕園務分掌が更に機能し、それぞれの役割を認識しながら、責任をもって業務に当たることが出来た。	B	未だ教職員内の情報共有に課題が残る。個人の情報伝達に対する意識と、制度面との改善を引き続き行う。	職員が増加しシフトでの業務を遂行する中で、情報の伝達・共有は非常に大切である。皆が情報を確認出来るような方策（例：ミーティングノートの活用、多重なチェック方法等）を考え、円滑な保育業務・事務業務をお願いする。
	③保護者や地域の願いを受け止めながら、教育（保育）理念等の目標達成に向け、適切な内容で園の行事を行う。	〔○〕コロナ禍にありながら、二大行事に関しては積極的な方法を模索しながら開催できた。保護者からも喜びの声が多数溢れ安堵するところである。	B	コロナ禍によって生まれた気付きを大切に、社会状況に即した方法を取り入れつつ、円滑な行事の開催を目指す。	保護者から開催時期や方法の提案はあるようだが、まずは子どもの成長を第一に、行事の在り方を考え続けてほしい。その上で保護者の意見にも耳を傾けつつ、柔軟な対応をお願いしたい。
2 保育の質の向上と子どもの発達支援	④教職員の研修の機会を確保し、保育の質の向上に努める。	〔○〕外部研修のオンライン化や園内研修の充実により、研修に対する意識が高まった。	B	今後も社会状況に合わせた研修を積極的に取り入れたい。	コロナ禍で外に目を向けられない分、内部で工夫しながら研修を進められたことは評価する。引き続き研修計画を大切に、教職員の研鑽を図ってほしい。
	⑤子どもの人権を尊重し、幼児一人ひとりの人としての尊厳を守るように配慮する。	〔◎〕高評価の項目である。幼児一人ひとりを大切に保育を全職員が心掛けてきた。	A	子どもの人権尊重を最優先し、今後も幼児一人ひとりを大切に保育を推進する。	先生方が高い意識を持ち子どもに寄り添った保育をしていることは評価できる。今後も一人ひとりの子どもを大切に出来る園であり続けるために努めてほしい。
	⑥幼児一人ひとりの理解を深め状況に寄り添いながら健全な発達支援に努める。	〔◎〕高評価となった。一人ひとりへの丁寧な理解に対する意識が高まったものである。	B ↓ A	引き続き個に応じた発達支援に努め、情報共有も大切にしている。	保護者や教職員の評価が上がり、子どもを大切にしている保育ができてきていると思う。園が信頼される為の大きな要因である。
	⑦幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保するための環境を整える。	〔◎〕子ども達が主体的に遊ぶことの出来る環境設定を、保護者の理解のもとで教職員が推進出来た。	B	教育・保育要領の「あそびを通して学ぶ」という理念を大切に、今後も環境整備に努める。	おもちゃや遊具を活用して「互助」という精神を育ててほしい。遊びの中でそのような精神を育てていくことは認定こども園として重要な責務であろう。
3 健康と安全	⑧幼児期の生活に相応しい安全な環境を整えるように努める。	〔◎〕感染症対策の徹底を行い、園児・保護者が安心して利用出来るよう努めた。	A	今後も感染症対策と併せて遊具や遊び場の安全点検に努める。	コロナ禍にあつて、感染症対策は大変だったと思う。今後も園児や保護者が安心して園を利用出来るよう努めてほしい。
	⑨避難訓練や交通安全教室を計画的に実施し、事故防止や感染症拡大防止に努める。	〔◎〕月に一度の想定を変えながら行う避難訓練の実施により、防災意識が高まっている。	A	事故防止マニュアルに基づく対応と感染症対策の実施を継続する。	昨今の自然災害等を鑑みると、幼少時から防災意識を高めるための取り組みは重要である。継続して訓練に努めてほしい。
	⑩安心安全な給食提供に努めるとともに、幼児の発達に応じた食事の介助や食事指導を丁寧にを行い、食育を充実させる。	〔○〕アレルギー等、給食における事故防止策の徹底と情報共有に努めた。	B	情報発信の場として大切な給食試食会を今後どのように開催できるのかを、社会情勢を注視しながら計画する。	アレルギーによる事故は起こしてはならない。起こる前のリスク管理を徹底し、保護者に園での取り組みを十分に説明するなどの予防に努めると同時に、万が一事故が起こった際の迅速な対応も準備すべきである。
4 特別支援保育	⑪幼児一人ひとりの個性を把握し、保護者や関係機関との連携のもと、特別に配慮が必要な幼児への指導の充実を図る。	〔◎〕高評価となった。保護者や関係機関と連携を図りながら、配慮が必要な幼児への支援を行った。また研修の効果もあり、教職員一人ひとりの支援への意識が高まりつつある。	B ↓ A	「個別の指導計画や教育支援計画」は保護者とともに作成する。子どもの「困り感」を第一に考え、適切な支援方法を保護者と共に作り上げる。	特別支援コーディネーターを配置し、支援の必要な子に対する指導に力を入れていることは評価できる。どの子も差別されることなく、園児同士の人間関係がより豊かになるような認定こども園になってほしい。また、保護者対応も引き続き丁寧に行ってほしい。
5 保護者支援と関係機関等との連携	⑫園の公開や情報の積極的な発信・提供を行う。	〔△〕新型コロナの影響により、保護者や教職員同士のつながりが希薄だった。	B	コロナ禍にありながら保護者との連絡体制の強化に努める。	昨今の状況を鑑みると、保護者との「連絡帳」は意義のあるツールなのではないか。使い方を精査しながら、有効に活用してほしい。
	⑬未就園児の保育体験、日常の子育て相談や情報提供など、子育て家庭への支援を積極的に行う。	〔○〕今年度も保護者支援における教職員の対応に改善を求める声が多く寄せられた。未就園児クラス（ウィズダム）は、新型コロナの影響で若干利用が減少した。	B	今後も保護者の気持ちに寄り添いながら、園の考えを丁寧に説明しつつ、両者が手を携え合いながら保育を推進する。	未就園児の保育体験やチャイルドを充実させることは時代の要請である。未就園・就園を問わず、すべての保護者の声に丁寧に耳を傾け、信頼される園であり続けてほしい。
	⑭市役所担当課や教育委員会などの関係機関や地域にある学校（小中高校）との連携や交流を積極的に行う。	〔○〕関係機関との連携を重視することは出来たが、新型コロナの影響で小中高校とのダイレクトな交流を図ることは出来なかった。	B	今後もこの地域の教育環境の良さを生かし、小中高校や福祉施設との交流や連携を図ることに継続して取り組んでいく。	同じ町の中で小中高校が存在する地域は、市内でも稀有である。その特徴を活かしながら、地域唯一の幼児教育・保育施設の認定こども園が発展し、他校種との交流や連携が図られているのは地域住民にとっては大変喜ばしいことである。

【注意】・各目標の達成度を〔 〕に◎○△▲で記す。 ・評価をA B C Dで記す。